

GIGA 端末活用実践事例

宇都宮大学共同教育学部附属中学校：指導者：芳田 潤

教科・領域等	学年	単元名・題材名等
国語	2	黄金の扇風機・サハラ砂漠の茶会

1. GIGA 端末活用のポイント

(1) 本時の目標

2つの説明的文章の、それぞれの主張と根拠の関係を正しく捉えることができる。

(2) 活用アプリ

ロイロノート

(3) GIGA 端末以外で利用した機器

なし

(4) アプリの活用場面と目的

オンライン オフライン

授業での活用場面（授業概要）

本時は、「美」をテーマにした2つの説明的文章を読み比べる単元（4時間扱い）の最終時の授業である。生徒は、本時に至るまでに2つの文章を読み比べて以下のことを見出したり考えたりしている。

第1時：2つの文章の共通点（どちらも「美」について述べた文章であることなど）

第2時：2つの文章の相違点（様々な観点から比較する） ※下の「図1」参照

第3時：2つの文章の主張（結論）を「三角ロジック」を用いて検証する ※下の「図2」参照

前時までに、4人班で1つの三角ロジックを提出させている。本時は、他の班の三角ロジックを参考にして、最終的に自分の三角ロジックを完成させる授業である。他の班の三角ロジックを参考にする場面で、ロイロノートを用いて共有させた。

2. GIGA 端末活用の画面例（写真等）

観点を明確にして比較しよう

氏名【 】

黄金の扇風機	観 点	サハラ砂漠の茶会
何をどう感じるかは地域の文化によって様々な文化や地域が違うから	考え方	何をどう感じるかは同じ『人』だから一緒
我々が美を見出す	根拠	人間は皆同じ
3段落（双括）	捉え方	美が我々にメッセージをくれる
常体	構成	2段落（尾括）
製品、住文化	文末	敬体
苦勞	体験	食事、食文化
豪華さ	体験の感想	感動
	物	質素

図 1

図1・2ともにロイロノート、紙のどちらに書くかは選択制にしている。

班で1つ提出させた図2（9班分）をロイロノートにて回答共有。

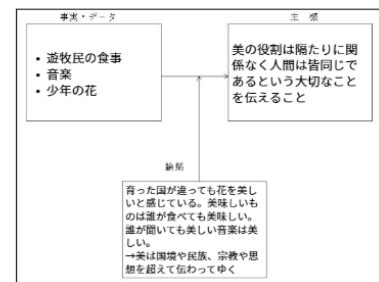
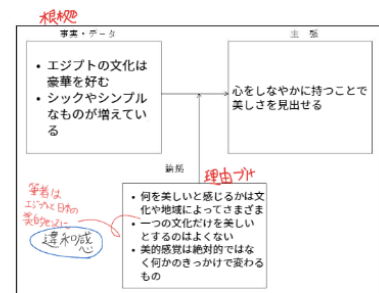


図 2

3. 効果と課題

(1) GIGA 端末 (アプリ) を活用して効果的だった点

一斉学習	<input type="checkbox"/>	教師による教材の提示				
個別学習	<input checked="" type="checkbox"/>	個に応じた学習	<input type="checkbox"/>	調査活動	<input checked="" type="checkbox"/>	思考を深める学習
	<input type="checkbox"/>	表現・制作	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	
協働学習	<input checked="" type="checkbox"/>	発表や話し合い	<input type="checkbox"/>	協働での意見整理	<input type="checkbox"/>	協働制作
	<input type="checkbox"/>	学校間の交流	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	

本単元に限らず、前出の図1・2のようなワークシートを用いる場合は、ロイロノート・紙のどちらに書くかを選択させている。少なくとも半数、多いときは8~9割の生徒が紙を選ぶ。その日の他の授業でのタブレットの使用状況や学習の内容によって使い分けている生徒が多いようである。

さて、本時では、自分の三角ロジックを完成させるための前段階として他の班の意見を参考にする時間を設けた。そこで、各班が前時に提出した三角ロジックをロイロノート上で「無記名」で共有させた。無記名で共有することには、「どの班(誰)が書いたものなのか」という余計な情報に惑わされず、三角ロジック上に示された情報をじっくり吟味できる(せざるを得ない)という利点がある。次に、名前を明らかにし、気になる三角ロジックを提示した班に質問に行かせた。このやりとりを通して、生徒は、自分たちの班が前時に提出した三角ロジックが本当に正しいのか、修正すべき点はないのかなどについて再度吟味し、自分の三角ロジックを完成させることにつなげていた。

(2) GIGA 端末 (アプリ) を活用して課題に感じた点

一斉学習	<input type="checkbox"/>	教師による教材の提示				
個別学習	<input type="checkbox"/>	個に応じた学習	<input type="checkbox"/>	調査活動	<input checked="" type="checkbox"/>	思考を深める学習
	<input type="checkbox"/>	表現・制作	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input checked="" type="checkbox"/>	健康に関すること
協働学習	<input checked="" type="checkbox"/>	発表や話し合い	<input type="checkbox"/>	協働での意見整理	<input type="checkbox"/>	協働制作
	<input type="checkbox"/>	学校間の交流	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	

本単元に限らず、ロイロノートの効果的な活用場面の1つとして、意見や考え、作品など(短歌や俳句など)の情報を比較して吟味できる「共有」が挙げられる。クラス全員の情報を画面上で手軽に入手できることは、授業の進度を速めることにも貢献している。

一方で、画面上で多くの情報を手軽に入手できてしまうからこそその問題点もある。本時の授業でも見られたが、画面上の情報だけを頼りにしているのか、質問に行かない生徒がいることである。本時では質問に行くことを必須条件とはしていなかったため、画面上のロジックと自分のロジックとをじっくり比較・吟味し、それにより自分のロジックを完成させても問題はない。しかし、画面上だけでは伝わりきらない意図や、対話によって生み出される新たな考えを見落としたり逃したりしてしまうのではないかという懸念がある。また、もっとよろしくない状況として、画面上に広がる情報の中の「多数派」を探し、その多数派の意見に安易に乗ってしまう生徒が散見された(もちろん、把握できた生徒には再考を促したが)。

蛇足かもしれないが以下のことを付記する。6校時の授業ともなると、タブレットの充電が切れてしまって使えない、それまでの5時間でずっとタブレットを使用し目が疲れてしまったことを理由に紙を選択する生徒もいる。こうした点も、今後考慮していく必要があるだろう。